

は、教育総監部の指揮下であるが、熊本所在師団の指揮下となり、熊幼47期は、分隊長に指命された。

すべての窓ガラスは散乱防止のための線状の紙を貼付する。寝台の架台は撤去され、マットは床に敷かれる。中庭と通路は緊急避難壕として掘り回らされた。清水台上の林の中に熊本師団から支給された高射機関銃2挺を設置、台下と兜山には地下壕を建設した。米軍の上陸が吹上浜と志布志湾にはほぼ確定。戦車の弱点である底部に爆薬を持ち突入する訓練が始まった。全員が玉砕を覚悟した。

だが、昭和20年8月15日、玉音放送の日となった。

熊本幼年学校の終戦

坂水 康 熊幼47

今年4月上旬、陸自第8師団（熊幼の跡地）坂本雄一師団長以下10名の方々が沖繩を偵察中、ヘリが海没殉職。心痛の極み。謹んでお悔やみ申し上げます。

さらに想起せば、小学校の修身授業の中に、6号潜水艇が浮上せず佐久間勉艇長以下14名の方々が酸欠に苦しみながら現場を離れず、従容と殉職された。明治43年4月15日、岩国沖の事故である。

沖繩戦にて先輩の牛島満軍司令官（熊幼5、陸士20）、長勇参謀長（熊幼13、陸士28）が自決され、組織的抵抗が終了。次は九州である。従来